

令和4年8月4日

石巻市議会議長 安倍 太郎 殿

会 派 名 ニュー石巻  
代表者氏名 会長 大 森 秀 一

## 調 査 報 告 書

調査した概要は次のとおりであります。

### 記

- 1 調査者氏名 大森秀一、阿部久一、遠藤宏昭、丹野清、高橋憲悦、阿部浩章、千葉正幸、楯石光弘、佐藤雄一、早川俊弘、木村美輝、勝又和宣、原田豊
- 2 調査期間 令和4年7月27日（水） 1日間
- 3 調査地 6総合支所
- 4 調査内容 各総合支所の実態について
- 5 調査目的 各総合支所の職場施設を見学しながら、職員数や職員の居住地、懸案事項など、各総合支所の実態を調査するもの。

## 6 調査概要・所感・調査による石巻市への政策提言等

### ① 河南総合支所について

#### ○ 調査概要

事前に準備された調査票を基に地域の現状と課題について説明を行なっていただいた。その中で、河南総合支所庁舎建物が、昭和39年建設以来58年経過し、度重なる地震被害等により建物及び給排水衛生設備等多くの箇所に故障・損傷がある。その都度、修繕を実施している件について深く議論が行われた。

#### ○ 所感

建物の至る所にひび割れが多く見られ、雨漏れ箇所もあることが確認できた。老朽化が著しく、今後も都度の修繕実施での対応は、現実的でないように思う。河南地域全域にわたる行政の拠点であることを考えると、現在のままでは災害対策や市民の安全確保に迅速に対応出来かねる状況になり得る。効率的な行政運営、市民に分かりやすい施設、市民に安全・安心を提供できる機能を持った総合支所が必要である。現状のまま推移しても、ただ庁舎が老朽化していきただけであり、改善を見込むことが難しい。この問題点を解決するために、将来にわたり財政的な不安のないことを慎重に確認し、庁舎の建て替えに向け早急に取り組む必要があると強く感じた。



### ② 桃生総合支所

#### ○ 調査概要

事前に準備された調査票を基に地域の現状と課題について説明を行なっていただいた。その中で、桃生豊里インターチェンジ周辺における産業団地形成について、深く議論が行われた。

#### ○ 所感

産業部において、各種法規制の適用状況やインフラの現状把握など、産業団地形成に必要な調査を進めていることから、所轄する産業部と情報共有を図りながら、調査結果を踏まえて対応することにより、北の玄関口活性化につなげていく協力が必要であると感じた。

又、地域自治システム「ものう夢ネットワーク」が平成27年7月に発足し、現在39団体が加盟している。今後も現行事業を継続しながら、新たな事業の展開も検討している。代表事業内容として、恋活事業「もの恋」を実施しており、地域の食材を使用した料理を振る舞う等、地域のPRにも貢献していることと過去28組のペアリングと2組のゴールインが出ていることに魅力を感じた。



### ③ 河北総合支所

#### ○ 調査概要

事前に準備された調査票を基に地域の現状と課題について説明を行なっていただいた。その中で、河北総合支所の庁舎管理費が高額である指摘を議会の一般質問で受けた件について深く議論が行われた。

#### ○ 所感

庁舎は旧河北町時代の昭和53年に建てられ議会室や議員控室など現在は農業委員会で利用している。また、平成15年に冷暖房の設備見直しを図ったが、議会や職員の業務に支障をきたさず円滑に行える様に大規模なシステム変更を行わず、これまでと同様の夜間電力を用いた方式で修繕を行った経緯がある。現行の冷暖房システム利用料が管理費用の約10%である400万円ほど毎年かかっている状況であり、光熱費などの管理費も他の総合支所に比べて割高になっていることを説明された。

調査票にはないが、視察した議員からの質問では使われなくなってしまった施設である「メディアシップ」に話がおよび、民間のNPOや社会福祉法人などへの貸与する事で活用を推進するべきとも総合支所へ伝えた。



### ④ 北上総合支所

#### ○ 調査概要

事前に準備された調査票を基に地域の現状と課題について説明を行なっていただいた。その中で、北上総合支所では人口2,171人ではあるが総職員数が59名と全総合支所の中でも最も多い人数となっていた点について、地元地域での雇用推進など深く議論が行われた。

#### ○ 所感

北上総合支所では震災後に総合支所、こども園、小中学校、復興住宅などをにっこりサンパークへ集約させた。行政機能の集約化と復興住宅を近隣に配置することで独居高齢者や一人親世帯は、利便性を確保され、福祉の面での大きなメリットが感じられた。

総職員数に関してはこども園の職員として、14名の会計年度職員を雇用していることで、人数が多い数値になっていると説明がなされた。職員の居住地について目を向けると、地理や地域の実情を把握している地元在住者が5名とあるが災害などの緊急対応を求められる場面では、もう少し地元地域での雇用を推進するべきと言う意見も出された。



## ⑤ 雄勝総合支所

### ○ 調査概要

事前に準備された調査票を基に地域の現状と課題について説明を行なっていただいた。そのなかで、雄勝総合支所では総職員数が26名のうち地元雇用が2名となっている点と大原川人工孵化場の再開についての深く議論が行われた。

### ○ 所感

雄勝総合支所では北上総合支所と同様で災害時などの緊急対応が求められる際に、地理や地域の実情を把握している地元雇用の人員が少なく、緊急事の対応は困難を極めると予想される為、議員より提言を行なった。

大原川鮭人工孵化場が再開し、350万匹の孵化と放流を目指したが、150万匹の放流に留まった。新施設は自動清掃などの最新の設備が整い、非常に少人数での管理態勢で事業を行うことが出来ることを理解した。



## ⑥ 牡鹿総合支所

### ○ 調査概要

事前に準備された調査票を基に地域の現状と課題について説明を行なっていただいた。その中で、職員の居住地に注目した際に仙台市内の居住者が1名いること、消防団員や民生委員などの担い手が慢性的に不足していること、金華山参拝客が減少していることなどについて深く議論が行われた。

### ○ 所感

牡鹿総合支所では仙台市より職員を1名雇用しているが、これは網地島の網小医院の医師であることが質問により理解することが出来た。更に網小医院の地域における重要性を伺うことができた。

また、消防団員や民生委員が慢性的に不足しており、民生委員に関しては牡鹿地区では19名選任しなければならないところ、12名に留まってしまっている。これにより、児童や高齢者を見守る立ち位置の支援者が地域に不在の状況は好ましくない現状であることを認識した。

産業に関してはコロナ禍の影響もあるが金華山の参拝の数が5分の1に減少し、観光業や飲食業などにも影響が出てしまっていることを把握することが出来た。



○ 市への政策提言等

本日の視察で感じたことは、人口減少、少子高齢化、雇用問題、庁舎の老朽化、道路などのインフラ整備など、課題が山積している事について改めて理解が深まった。

様々な地域課題に対応するためには、市役所本庁へ予算処置を求める流れを少しでも減らし、各総合支所での裁量権限や予算を与えること。

それにより、各総合支所で事業の優先順位を設定して予算執行を行い、市民の満足度を向上させる糸口になると感じられた。

今回の視察を通じて各総合支所の所長及び職員とつながることが出来たので、共に地域の課題解決に向けて尽力していきたい。

7 調査経費 95,000円